

今後の課題

今後の課題

「授業研究」「学習環境」「人的環境」の3つはどのように関係し合い、効果を上げていくのか

研究構想図で、「授業研究」「学習環境」「人的環境」の3つの各部会から出ている矢印は、そのほとんどが中心の「目指す児童生徒像」へと向かっています。しかし、研究を進めていく中で、「授業研究をより深めていくためには、学習環境や学習規律を考えていく必要がある」「Q-Uの結果から児童生徒の学級への関わり方を分析することで、授業における児童生徒の発言の取り上げ方や支援を考えられる」というように、各部の枠を越えて複雑に絡み合っていることを改めて実感しました。3つの各部がどのように関わり合い、どのように有効性を生み出しながら、「学習に意欲的に取り組み、確かな学力を身につけることができる児童生徒」の育成につながっていくかは、今後の大きな課題です。まずは、「何のためにその手立てをとるのか」という目的の明確化と、「それぞれの手立てがどのような相乗効果をもたらすのか」という効果の分析をすることが重要であると考えます。

各取り組みを徹底させること、継続させることの大切さと難しさをもとに乗り越えていくのか

今回、市内の学習環境部会の学校が、学習規律の確立や、学習環境の整備を重点目標に掲げ、年間を通して取り組んできました。その取り組みについては、一定の成果を出してきているものの、徹底させたり、継続させたりすることは、難しい側面が大いにありました。「当たり前のことが当たり前に見える」ということは、教師間の共通理解を含め、かなりの手間や時間をかけて検討をしていかなければなりません。

児童生徒が安心して学校生活を送り、意欲的に学ぶことができるようにするために、「学習規律・学習ルールやマナーを重視する」「授業研究の内容を深める」「学級活動や縦割り班の活動を充実させる」という目標を、全職員で共通に理解し、一つ一つ取り組んでいくことが重要です。この「当たり前」のことを、今回の研究をとおして改めて考えさせられました。

おわりに

平成 26 年度、豊明市が学力充実プラン推進事業の委託を受け、この1年間、主任研究と合同で研究を進めてきました。

今回の研究で立てた3つの柱である「授業研究」「学習環境」「人的環境」は、改めて考えれば、どの教師も日々かなりのエネルギーを費やして取り組んでいる内容です。この3つの柱を基本としながらも、粘り強く継続していくためには、教師個々の力がどうしても必要となります。つまり、「豊明市学力充実プラン」を単なる理論としてとらえるのではなく、より効果的に動かし「生きたもの」にしていくのは、児童生徒と向き合っている教師個々の情熱と創造力です。そして、「チーム学校」としての教師集団の協力体制が大切になります。

さらに、今回の研究をとおして、市内12校の協力体制が何よりも重要であることに改めて気づかされました。これまで、「授業研究」「学習環境」「人的環境」の3つの部分について、各学校は独自に進めていましたが、研究を進める中で、個々の学校の状況を知ることができ、「いい取り組みをしているね」「うちの学校でもぜひ取り入れたい」等、少しずつ「チーム豊明」としての輪が広がっていきました。

豊明市の児童生徒が、学校で、学級で、授業で生き生きと学び、生きる力を高めていくことを願い、私たちはこれからも「チーム豊明」として研究と実践を継続していきたいと思います。